

ゆりのき台小コミュニティ・スクールだより



2020年3月号

発行者 ゆりのき台小学校 学校地域運営協議会

「地域の温かさの中で」

ゆりのき台小学校 三輪 三四郎

今年度もいよいよ、残りわずかとなってきました。1年間、学校支援ボランティアさんをはじめ、多くの地域の方々に支えられ、子どもたちも教師も充実した活動ができましたことを、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

私自身、この4月大きな期待と大きな不安を胸に、ゆりのき台小学校に着任しました。初めて経験することも多くありましたが、その全てがたいへん新鮮で楽しいものでした。その1つが家庭科授業でした。子どもたちにとっても家庭科は今年初めての教科、わくわくしながらその時間を待っていました。はじめての活動は、『家族だんらん』。きゅうすでお茶を入れる学習でした。自分たちの入れたお茶を、幸せそうに飲んでいる子どもたちの笑顔に、こちらも心癒されました。そして、その横で、もっと幸せそうな笑顔で子どもたちを見つめる学校支援ボランティアさんの横顔。その光景に、こちらも自然と胸があつくなりました。

家庭科といえば、やはりミシン！5年生でのナップザック作りでは、毎時間多くのボランティアさんがサポートしてくださいました。糸が絡まっても、ぬい間違えても、いつも笑顔で、温かく子どもたちの手助けをして頂きました。おかげで、予定より何時間も早く、見事なナップザックが全員完成しました。ミシンが苦手な私自身も、ほっとした瞬間でした。

ある休日の朝、運動場から多くの声が聞こえてきました。外をのぞいてみると、多くの子どもたちの姿がありました。いつもとちがう様子なので外に出てみると、『全力おにごっこ』のイベントを行っていました。「鬼が足りないので、先生もぜひ。」と声をかけられ、いっしょに参加させて頂きました。お母さんだけではなく、多くのお父さんも参加していて大盛況でした。いろんなミッションがあったり、プレゼントがあったりと、手作りの温かさ、人々のつながりがそこにはありました。家族そろって、笑顔で帰って行く姿がとても印象的でした。

5年生がビーミーの学習でボランティアさんにインタビューをした際、「この活動はわたしの生きがいです。たくさんの元気をもらいます。」と笑顔でおっしゃっていました。「こんなまちにしたい！という願いを持っています。そのために、今わたしにできることをやっているだけです。」そんな言葉も印象的でした。『人と人とがつながりあうこと』いくらお金をかけても、それがうまく実現できない現代社会の課題。「このまちで過ごせてよかった。」きっと子どもたちが大きくなったら、このゆりのき台に戻ってきて、そんな言葉を口にするのではないのでしょうか。地域の温かさの中で、子どもも大人も真つすぐに成長できるまち。そう感じることでできた素敵な1年間でした。お世話になった地域の皆様、本当にありがとうございました。

突然の休校となり、3月号の発行ができないままとなっていました。三輪先生から素敵な原稿をいただき、できれば皆さんにも読んでいただきたいと思います。修了式の日となりましたが配布することにしました。6年生には、ゆりっこ広場と学校支援のボランティアさんからお祝いのメッセージをいただき、卒業式に掲示させていただきました。

4月の新年度は普段通りの生活が戻ることを信じて、進級した皆さんの元気な顔が見られることを楽しみにしています。

ゆりのき子どもネットワーク スタッフ一同

